

都市再生整備計画 事後評価シート

黒崎副都心地区

平成29年11月

福岡県北九州市


様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	福岡県	市町村名	北九州市	地区名	黒崎副都心地区			面積	160ha					
都市再生整備計画事後評価シート	平成25年度～平成29年度	事後評価実施時期	平成29年度	交付対象事業費	1,981.2百万円	国費率	0.423							
1) 事業の実施状況	事業名													
	当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	道路:城山西線 地域生活基盤施設:歩行者誘導サイン整備 高質空間形成施設:櫛川景観整備、黒崎駅前ペDESTリアンデッキ整備											
		提案事業	地域創造支援事業:まちづくり総合支援事業、街なか情報発信推進事業 まちづくり活動推進事業:黒崎副都心賑わいづくり推進事業、新たな地域コミュニティ支援事業 事業活用調査:事業効果分析業務											
	当初計画から削除した事業	基幹事業	なし			削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
		提案事業	地域創造支援事業:街なか情報発信推進事業			・黒崎駅周辺で街なか情報の一元的な集約等を行う予定であったが、平成26年度からの黒崎駅駅舎建替に伴い協議が整わず、実施を見送った。			事業の削除に伴い数値目標を修正した。					
新たに追加した事業	基幹事業	なし			-			-						
	提案事業	地域創造支援事業:地域連携促進支援事業 まちづくり活動推進事業:新たな賑わいづくり支援事業			・関連機関協議の結果、新たに事業を実施することが可能となったため。			事業の追加に伴い数値目標を修正した。						
交付期間の変更	当初	平成25年度～平成27年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響	事業期間の変更に伴い、目標を定量化する指標を追加した。また、事業期間の変更に伴い数値目標を変更した。									
変更	平成25年度～平成29年度													
2) 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
	指標1	駅乗降客数	人/日	30,134	H24年度	28,994	H29年度	—	30,570	○	あり	—	黒崎駅周辺の道路整備による車での駅へのアクセシビリティ向上、歩行者空間の整備による歩行者の駅へのアクセスや安全性向上等が、乗降客数の減少率抑制につながったと考えられる。また、地区内人口増加も減少率抑制に寄与したと考えられる。	平成30年6月
	指標2-1	中心商店街内の歩行者通行量	人/日	16,216	H24年度	15,156	H29年度	—	12,093	×	あり	—	歩行者空間の整備や各種ソフト事業により、中心商店街への回遊性向上を促進してきたが、平成25年度以降減少が大きく、その後も減少に歯止めがかからなかった。地区内人口は増加し、空き店舗率も改善しているが、屋間の商店街の回遊性向上には寄与しなかったと考えられる。	平成29年12月
	指標2-2	駅前ペDESTリアンデッキ上の歩行者通行量	人/日	21,189	H26年度	21,189	H29年度	—	22,389	○	あり	—	ペDESTリアンデッキの再整備により駅へのアクセスや安全性・快適性が向上し、ペDESTリアンデッキ上の歩行者通行量増加につながったと考えられる。また、地区内人口増加も歩行者通行量増加に寄与したと考えられる。	—
指標3	地区内人口	人	13,510	H24年度	14,119	H29年度	—	14,175	○	あり	—	櫛川再整備や黒崎駅周辺道路や、第1期の事業で整備した図書館・ホール等の公共施設の整備により、快適で美しい景観のまちが形成され、居住環境が向上したことから、民間による未利用地等における住宅開発が進み、地区内人口の増加につながったと考えられる。	平成30年4月	
3) その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		単位	従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合見)	フォローアップ 予定時期	
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値							
その他の数値指標1	空き店舗率	%	20.2%	H24年度	/	/	/	14.2%	/	/	/	歩行者空間の整備や各種ソフト事業により、商店街の空き店舗率改善につながったと考えられる。	平成29年12月	
4) 定性的な効果発現状況	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな担い手や市民団体による活動が芽生えたことから(第1期)、まちづくりへの参画意欲が高まり、持続的な取組が展開されつつある。その取組の一環として、乾杯イベント等、夜のイベントが開催されていることや、空き店舗率が改善し飲食店が増加したこと等により、夜間におけるまちのにぎわいが活性化しつつある。 ・まちづくり相談窓口により、商店街のアーケード撤去における合意形成や撤去後のまちづくり方針に係る検討が行われるようになった。 ・図書館やホール、交流広場の整備(第1期)により、教育・文化的な催し物の機会が増え、その機会を更に活かした新たな交流イベントや文化活動が広がった。 													
5) 実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等					
	モニタリング	「成果の評価」、「実施過程の評価」、「効果発現要因の整理」、「モニタリングの所見」について整理			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● —					
	住民参加プロセス	【新たな地域コミュニティ支援事業】 地元団体等で組織する委員会を設置し、回遊性や集客向上を図るため、イベントや社会実験等を実施した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● 今後地元等と連携して、必要に応じて実施していく。					
	持続的なまちづくり体制の構築	【まちづくり総合支援事業】 まちづくりをマネジメントする専門家を配置するほか、自主的にまちづくりを進めるための人材育成等を行い、まちづくり体制を強化した。			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● ● 今後まちづくりの担い手育成及びサポート体制の強化のための支援を行う。					

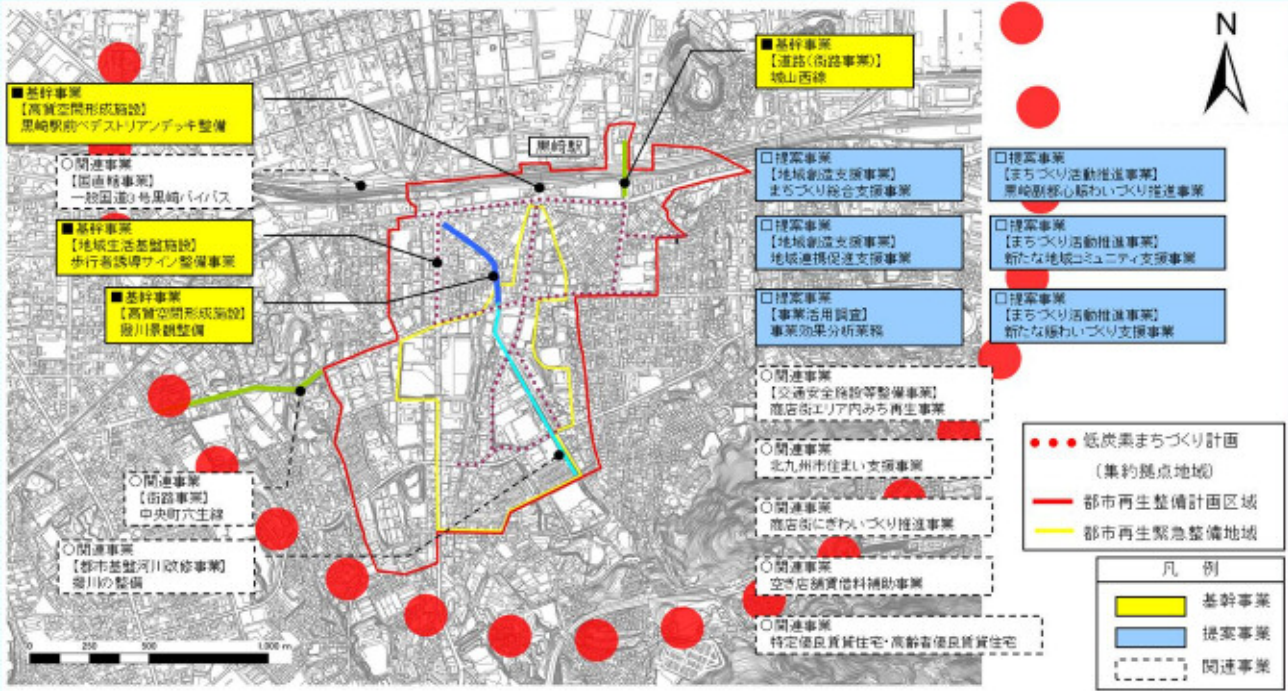
様式2-2 地区の概要

黒崎副都心地区(福岡県北九州市) 都市再生整備計画事業の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標	従前値	目標値	評価値			
大目標:北九州西部都市圏の中核として、複合的な都市機能の集積や快適な生活空間の形成を図ることにより、副都心部の賑わいづくりを推進する。 目標1 安全・安心・快適で美しい市街地を形成する。 目標2 にぎわいの核を拠点とした交流促進及び活性化を図る。 目標3 まちの機能を集約して街なか居住を促進する。 目標4 持続的なまちづくり体制を構築する。	駅乗降客数 単位:人/日	30,134	H24年度	28,994	H29年度	30,570	H29年度
	中心商店街内の歩行者通行量 単位:人/日	16,216	H24年度	15,156	H29年度	12,093	H29年度
	駅前ペDESTリアンデッキ上の歩行者通行量 単位:人/日	21,189	H26年度	21,189	H29年度	22,389	H29年度
	地区内人口 単位:人	13,510	H24年度	14,119	H29年度	14,175	H29年度

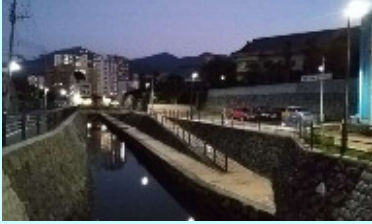


黒崎駅ペDESTリアン・デッキ整備




● 低炭素まちづくり計画 (集約拠点地域)
 — 都市再生整備計画区域
 — 都市再生緊急整備地域


凡例
 ■ 基幹事業
 □ 提案事業
 ○ 関連事業



撥川景観整備



歩行者誘導サイン整備



城山西線

まちの課題の変化

- 黒崎駅周辺道路やペDESTリアンデッキ、歩行者誘導サインの整備等により、地区内のアクセシビリティが高まり、安全・安心・快適に回遊できるようになった。また、ペDESTリアンデッキの整備や照明灯の設置、歴史的風情を含めた景観整備により、副都心の「まちの顔」として相応しい美しい都市景観を形成しつつある。
- 黒崎駅周辺の道路整備等によって、地区内外の交通のアクセシビリティが向上した。
- 「にぎわいの核」である文化・交流拠点地区やコムシティを中心として、地区全体において、多彩で魅力的なイベントが継続開催され、地域における多世代交流が促進されている。
- 道路網や歩行者空間、河川、文化・交流拠点地区の整備、コムシティの再生等により、居住環境、利便性が向上した。
- また、シニアマンション、共同住宅の供給及び生活利便施設の立地により、街なか居住が促進されている。
- 地域のまちづくり団体が主体となり、毎年交流イベントが実施される等、まちの賑わいづくりに向けて、地域が一体となった自発的な取組が推進されている。

今後のまちづくりの方策 (改善策を含む)

- 安全・安心・快適で美しい市街地の形成
 - ・安全・快適な歩行者空間の整備や歴史的資源を活かした景観整備を未完了の箇所で行う。
 - ・昼間だけでなく、夜間も含めたまちのにぎわい創出を図るため、国家戦略特区に関連したイベントや商店街のにぎわい創出を図るイベントの開催支援やシティープロモーション(PR・広報活動)を行う。
- にぎわいの核を基点とした交流促進・活性化
 - ・引き続き周辺道路を整備することにより交通のアクセシビリティを向上させるとともに、駅周辺施設や商店街等と連携強化するイベントの開催支援やシティープロモーション(PR・広報活動)を行う。
 - ・城山西線や南北連絡通路の整備により計画区域北側へのアクセシビリティを向上させ、安川電機ロボット村や企業の事業所、駅周辺施設、商店街等の連携等を促進する。
- 街なか居住の促進
 - ・居住環境をさらに向上させるため、高齢者や子育て世代等の生活を支援する施設やサービスの強化、未利用地の利活用促進、住民主体の居住環境維持管理活動の支援等を図る。
- 持続的なまちづくり体制の構築
 - ・民間主導のまちづくり体制や地域コミュニティの担い手と連携し、自発的なイベントの開催等による街の賑わいづくりを促進する。